

## 貸借対照表

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>	千円	<b>(負債の部)</b>	千円
<b>I 流動資産</b>		<b>I 流動負債</b>	
現金及び預金	840	未払金	31,767
売掛金	156,434	未払費用	29,743
前払費用	14,787	未払法人税等	15,375
繰延税金資産	9,266	預り金	1,751
短期貸付金	958,501	賞与引当金	11,358
未収入金	267,679	役員賞与引当金	12,986
流動資産合計	1,407,509	流動負債合計	102,982
<b>II 固定資産</b>		<b>II 固定負債</b>	
<b>1 有形固定資産</b>		その他	29,277
建物	20,563	固定負債合計	29,277
工具器具備品	17,474	<b>負債合計</b>	<b>132,259</b>
有形固定資産合計	38,037	<b>(純資産の部)</b>	
<b>2 投資その他の資産</b>		<b>I 株主資本</b>	
子会社株式	3,678,602	<b>1 資本金</b>	10,000
前払年金費用	4,396	<b>2 資本剰余金</b>	
繰延税金資産	600	資本準備金	2,500
差入保証金	20	資本剰余金合計	2,500
投資その他の資産合計	3,683,619	<b>3 利益剰余金</b>	
固定資産合計	3,721,656	繰越利益剰余金	4,984,406
		利益剰余金合計	4,984,406
		株主資本合計	4,996,906
		<b>純資産合計</b>	<b>4,996,906</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,129,165</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>5,129,165</b>

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

定額法によっております。

##### ②無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

#### (2) 引当金の計上基準

##### ①賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出にあてるため、当事業年度における支給見込額に基づき、当事業年度に見合う金額を計上しております。

##### ②役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出にあてるため、当事業年度における支給見込額に基づき、当事業年度に見合う金額を計上しております。

##### ③退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

ただし、当期末においては、前払年金費用が発生しているため、退職給付引当金を計上しておりません。

#### (3) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

##### ①リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が新リース会計基準適用開始前の取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

##### ②消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

### 2. 会計方針の変更に関する注記

従来、当社は一部の有形固定資産の減価償却方法について、定率法を採用しておりましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

当社の親会社である富士ゼロックス株式会社が、近年の設備の利用および投資の安定化を鑑み、当事業年度より減価償却方法を定率法から定額法に変更するため、親会社との会計方針統一の観点から有形固定資産の減価償却方法を見直した結果、当社における設備の利用および投資の状況について親会社と同様であると見込まれることから、定額法を採用したほうが収益と

費用の対応関係がより適切であり、当社の経営実態をより適切に反映させることができると判断したものです。

この変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

3. 当期純利益金額 1,402,096 千円